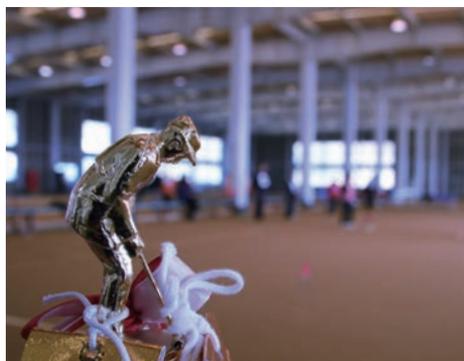




広報
わかさ

2014.03 No.107





FireFighter

ま ち の 消 防

住民の生命、身体、財産を火災から守り、水害・地震などの災害に対応する。また、急病やけがの救急業務も行う。若狭町では、敦賀美方消防組合三方消防署と若狭消防組合上中分署を拠点として、消防署員、消防団員が力を合わせ、日夜、住民の安心安全の維持に力を注いでいます。



三方消防団出初式





〈救急出動回数〉

三方 337回
上中 293回

〈消防出動回数〉

三方 28回
(火災5、救助5、警戒11、風水4、救急支援3)
上中 15回
(火災4、救助4、警戒等7)

※平成25年1月～12月まで

〈主な年間行事〉

- 1月 三方消防団出初式
上中分署・上中消防団出初式
三方地域文化財火災防御訓練
上中地域文化財火災防御訓練
- 6月 三方消防団・上中消防団合同水防訓練
- 7月 上中消防団・自衛消防団操法大会
- 10月 若狭町防災訓練および上中消防団秋季訓練
三方自衛消防隊操法指導会
- 12月 年末警戒



上中消防団出初式





三方地域文化財火災防御訓練(世久見)

新年は出初式から始まり、消防関係の方の活躍を目にする機会が多いようです。今回は知っているようで知らない消防の事を調べてみました。

また、若狭町は合併したのに、消防はなぜひとつの組合にならないの？という話を聞くことがあります。

まずは現状から見てみましょう。

(図1 参照)

三方は消防署、上中は消防分署となっており、職員数や車両などは各消防組合の基準によって配置されています。消防団についても、各消防組合条例に基づき、組織されています。

三方の消防団員の数に比べ上中は100人ほど少ないですが、三方消防団員は防犯隊員を兼務しており、上中は、別に防犯隊が存在します。

また、三方は消防団を退団した方が自衛消防隊に入ることが多く、上中は、各集落に自衛消防団があり、その中から町の消防団に出ています。

分団が各地区にひとつずつと本部付分団がひとつというのは同じです。

防火水槽は、補助金制度を利用しながら地元負担を含めて整備してきた上中は数が多く、各自衛消防団が所有する小型ポンプを使って使用することも想定できます。

三方は、防火水槽は組合全体として整備していますが数が少なくなっていますが、代わりに消火栓が多く、自衛消防隊が利用しやすくなっています。

三方は、消防団所有の車両を増やし機動力を高めており、上中は、消防団だけでなく各自衛消防団が活動することを期待したものとなっています。

このように、整備の形は違いますが、それぞれの組合の歴史や持ち味を活かしながら活動しやすい方法が形成されているのがわかります。

次に、それぞれの地域の消防救急活動の協力体制はどうなっているのでしょうか。

お互いに協力することが出来るように覚書を作り、応援できる体制をとっています。(図2)

通常、隣接する消防組同士は相互応援協定を結んでいて、応援要請は、119番通報が入った消防本部指令から、相手方の消防本部指令を通じて各消防署に応援要請が入ります。

町内の三方・上中地域も同じやり取りをしますが、特に、町内の管轄が接する三十三地区・鳥羽地区などから119番通報があり、既に管轄の救急車や消防車が出動している場合には、応援要請のやり取りが容易になるよう覚書によって便宜が図られていて、救急出動については日常的に行われています。

また、消防団は、分団長以上の役職者が連絡協議会を作って情報交換を行っています。

水防訓練も、会場を1年交代で移しながら、一緒に行っています。

ふたつの消防組合に分かれていることについて町長に聞いてみました。

国は30万人にひとつの消防組合にすることを基本指針としています。嶺南はひとつの組合になるよう、事務的にはすり合わせをしていましたが、課題も残っており、ひとつになるところまでは至っていません。

業務としては、協定も結んであるので、支障があるとは思っていませんが、経費面においては割高になっています。

平成26・27年に若狭、敦賀美方両消防組合において、通信機器のデジタル化が予定されています。

管理者会では、経費削減を考えて、指令本部を1か所にしてはどうかと話題が出ています。そのことによるメリット、デメリットを整理し、検討しているところです。





上中地域文化財火災防御訓練(熊川)

★図1 消防組織

三方消防署：

18人の職員が24時間勤務の2交替制
 車両 水槽車、ポンプ車、救急車、指令車
 化学消防車、トラック、団車

消火栓の数 587

防火水槽の数 110

三方消防団 (233人 防犯隊含む)			
本部分団	1分団 (三方)	2分団 (西田)	3分団 (三十三)
消防車 1	積載車 2 軽積載車 1 小型ポンプ 2	消防車 1 積載車 3 軽積載車 2 小型ポンプ 2	消防車 1 積載車 2 軽積載車 1 小型ポンプ 1

上中分署：

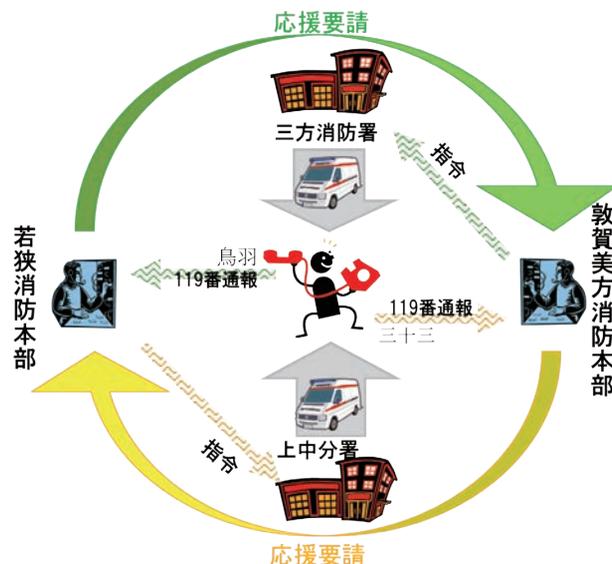
14人の職員が24時間勤務の2交替制
 車両 水槽車、ポンプ車、救急車、指令車

消火栓の数 269

防火水槽の数 172

上中消防団 (139人)					
特機分団	1分団 (鳥羽)	2分団 (瓜生)	3分団 (熊川)	4分団 (三宅)	5分団 (野木)
消防車 1	積載車 1	積載車 1	積載車 1	積載車 1	積載車 1
小型ポンプ 32 (集落自衛消防団所有)					

★図2 連携の方法



取材を終えて…

24時間、時間に関係なく求められる消防・救急業務。

業務の全てを表すことはできませんが、消防署員や団員がそれぞれの立場で、いつでも動ける体制が整えられていると感じました。

ふたつに分かれた組織構成に漠然とした不安も感じていましたが、実は互いにカバーし合うこと

で、より手厚い環境にあるのではないかと思います。また、町長の今後の取り組みにも期待したいと思いました。

私たち住民も、公助だけを当てにするのではなく、自助・共助の取り組みを進めていけると良いと思いました。(取材：NPOわかさReco.)



にぎやかに走り初め

雲間から初日の出が顔をのぞかせる元旦午前8時。野木体育協会主催の新春ジョギング大会には160人の地区の住民が集まり、全員でラジオ体操をして、ジョギングは2km、ウォーキングは1.1kmのコースをスタート。途中、桂林寺で鐘をつき公民館に戻りました。

翌2日の10時から、瓜生地域づくり協議会主催の新春ジョギング大会が行われ、あいにくの雨でしたが90人が参加しました。こちらは、関生活改善センターを出発し、瓜生の天満宮を参拝して戻るコース。

どちらも大勢の参加者が、知り合いと顔を合わせて新年の挨拶を交わす姿が見られました。

背筋も心もまっすぐ

1月4日、西田公民館で新春書初め大会が行われ、小学生から高校生まで15人が参加しました。子どもたちは、今年の恵方である東北東に向けられた机の前で背筋を伸ばし、ゆっくり丁寧に筆を運んでいました。

また、三方公民館主催の書初め教室は1月5日に開催され、三方地区の小学生18人が、約2時間、みっちり取り組みました。

どちらも講師を務めた松村勉さんは、一人ひとりほめながら優しく書き方を指導し、根気よく書き続けた子どもたちは、目を見張る作品を仕上げていました。



Photo:Takako Akao

きりっとせー

1月12日、有田区^{いつき}齋神社から男たちの声が聞こえます。「きりっとせーきりっとせー…しゃっくりせーしゃっくりせー…かえましょかえましょ…」わらを、太さ30cm長さ13.5mの大きな綱になるまで縄をなう、集落総出の「綱取り神事」の掛け声です。

この神事は、昔、鳥羽川に流れていた光るご神体を、綱で引き上げておまつりしたいわれを今に伝え、集落の五穀豊穰や安全を祈るものです。

昼過ぎから夕暮れまでの時間、男たちが縄をない、子どもたちがほどいて邪魔をしてじゃれあったこの祭り。残念ながら、今は子どもの姿はありませんでしたが、男たちがはしゃぐ声は変わらぬまま。

出来上がった縄を担いで集落を周り、齋神社へ奉納するまで、集落は掛け声と笑い声に包まれました。



白熱！かるた

【第33回嶺南地区かるた選手権大会優勝者】

小学校団体の部：明倫小学校
 小学校2年以下の部：藤本蒼依（明倫小2年）
 小学校3・4年の部：今川結子（三方小3年）
 D級・中学・高校・一般の部：
 坂口玉枝（気山）
 有段者の部：上野山真一郎（上瀬）



嶺南地区かるた選手権大会

【第9回若狭町子ども会かるた大会結果】

Aブロック優勝：鳥浜A
 準優勝：気山・上瀬A
 3位：南前川A
 4位：藤井A
 （以上、嶺南大会出場）
 Bブロック優勝：鳥浜B
 Cブロック優勝：佐古・田名A
 Dブロック優勝：気山・上瀬E
 Eブロックリーグ優勝：鳥浜D
 鳥浜E



子ども会かるた大会

若狭町の冬は、かるた競技が盛んに行われていて、小学生から大人まで、多くの人に参加して大会が行われています。

1月11日、若狭町かるた協会主催の「第33回嶺南地区かるた選手権大会」が三方青年の家で行われ、嶺南各市町から集まった65人が、年代ごと、ランクごとに熱戦を繰り広げました。

また、1月26日は三方ショッピングセンターレピアの2階ホールで、若狭町子ども会育成連絡協議会主催の「第9回若狭町子ども会かるた大会」が開かれ、町内の小学生215人がチームを組んで出場しました。

大会はAからEのランクごとにリーグ戦を行い、Aブロックの上位チームは、2月9日に敦賀市武道

館で行われた「第39回嶺南地方子ども会かるた大会」に出場し、上位に入賞しました。

1月13日に大津市近江神宮勸学館（滋賀県）で行われた「第63回高松宮記念杯全国歌かるた大会」では、三方小学校3年の千田椎菜さんが、小学生のE級2aリーグで優勝し、町長に優勝報告をしました。

読み手の凛とした声が下の句を読み始めると、選手たちは体を前のめりにして、次の上の句が出るのを待ち、上の句の一文字目が聞こえるや否や、目にも止まらぬ速さで札を払う。小さな体の小学生も、かるたを前に戦う姿はとて大きく見え、たくましささえ感じました。

【第39回嶺南地方子ども会かるた大会結果】

優勝：南前川
 準優勝：気山・上瀬
 4位：藤井・気山



千田椎菜さん



町のファーマーズ

1月15日、かみなか農楽舎で研修生による研修報告が行われました。

報告会には、同舎の卒業生や関係者約40人が参加し、7人の研修生が栽培や販売活動を通じて学んだこと、今後の目標などを発表しました。発表では、地域の祭や総出などに参加し、そこでの交流から学んだことについての報告もありました。

4月から町内に定住する予定の藪田淳生さんは、「農楽舎では農業で生計を立てる難しさを学びました。今後は今までの経験を踏まえて、若者が本当にやりたくなるような農業や田舎暮らしを模索しながら、自然の中で楽しく暮らせる場所を作りたい」と話していました。（写真は島光毅さん）

交通安全を誓う

1月16日、雪にすっぽりと覆われた末野の恵比須神社において、交通安全協会や警察、消防などの関係者約30人が出席し、交通安全祈願祭が執り行われました。

交通事故で亡くなられた方に黙祷を捧げた後、神事を営み、町民と会員の交通安全を祈願しました。

また、若狭交通安全協会上中支部の松岡喜栄会長が挨拶に立ち、1年3か月続いている町内の交通死亡事故0の継続と、交通安全意識の向上を推進していくことなどを誓いました。



お茶とケーキとお話と

1月31日の夜、町立図書館三方館で「ブックカフェ」が開催されました。図書館でお茶を飲みながらゆっくり語り合う活動をしてきたブックカフェに、今回はテーマを決めて講師の方のお話を聞く時間も加わりました。

この日は小嶋明男さんを迎え、若狭町で見られる鳥のお話をさせていただきました。小嶋さんは写真やCDで、それぞれの鳥の特徴などを楽しく紹介していました。

これからは鳥を見かけたら立ち止まって鳴き声に耳をすませてみようかなと思いました。

（橋本旭佳）





未来のシェフ奮闘!

若狭町の特産品を使った料理の研究発表会が美
方高校で開催されました。

この発表会は町が主催したもので、同校食物科
の3年生有志が福井梅や熊川葛、里芋などの町内
産品を使い、研究して調理しました。

レストランのシェフや関係者らが生徒のスイー
ツや料理を試食して講評しましたが、どの作品も
レベルが高くて評判もよく、力量の高さをうかが
わせました。

それぞれのレシピは特産品のアピールや売り込
み、イベントなどに活用されます。(竹中淳二)



焼きたての香り

1月19日、谷地田美由紀さんを講師に迎え、パ
レア若狭キッチンスタジオでパレ若塾「プチケー
キづくり体験教室」が開催されました。

町内外から集まった12人の参加者は、「苺のフォル
ルテ」と「海老とプロコッリーのグラタン」、そし
て「トマトとポテトのフォカッチャ」の3種類の
料理に挑戦しました。

生地や飾りつけも個性豊かで、笑い声の絶
えないひとときとなりました。

キッチンでは生地を焼ける香りで満たされ、焼き
あがったパンがオーブンから取り出される度に歓
声が上がりました。



新春ゲートボール

1月21日から23日の3日間、若狭町新春親
善ゲートボール大会が、海山の屋内ゲートボ
ール場で開催されました。大会には、町内から18
チームが参加し、熱戦を繰り広げました。

【結果】 優勝：神子チーム

準優勝：岩屋チーム

3位：小川チーム、ひまわりチーム



優勝した神子チームのみなさん





湖 と と も も に

1月25日、県立三方青年の家で三方五湖自然再生協議会が行われ、会長を務める東京大学の鷺谷いづみ教授をはじめ、環境に関する研究者、団体、個人、関係行政機関が一堂に会しました。

協議会では、自然護岸再生をはじめ、湖と田んぼのつながり、外来生物等対策、環境に優しい農法、環境教育、シジミのなぎさの各部会から今年度の活動と今後の課題などが報告されました。

三方五湖自然再生協議会の活動は、全国からも注目を浴びており、今後の活動が期待されます。

ホタル、いたよ

1月31日、梅の里小学校で、西田公民館主催の「ホタルの会」の報告会が行われ、会のメンバーと梅の里小学校の児童約50人が参加しました。

はじめに、ウエットランド中池見の笹木智恵子さんが、田んぼの生き物やホタルの再生などについての講演を行いました。次に、児童たちが手づくりの地図を使って、自分たちの集落のホタルの生息状況を発表しました。

「ランチルームに集まってきた梅の里小学校の児童たちは、元気いっぱい。みんな恥ずかしがることなく、堂々と発表していました」（四方由紀子）



災 害 に 備 え て

2月4日、町職員や防災関係者を対象とした若狭町災害対策本部研修会が、三方庁舎で行われました。

研修会では、大阪府危機管理室災害対策課の井上達夫主任専門員が、大阪府の危機管理組織や平時からの連携についてを、また豊岡市防災課の垣江重人課長が、5つの町が合併した豊岡市の職員配置についてを講演しました。

ほかにも、昨年秋の台風18号への対応の課題などが担当課から提示され、災害時に地域が分断された時の情報共有やごみの対応、職員配置の方法など、具体的な対応策についても意見交換が行われました。



天神様に冠句を

1月19日、大鳥羽集落で110年前から続いている行事、天神講が行われ、集落の小中学生18人が参加しました。

天神講は毎年1月25日の前後に行われる行事で、学問の神様である菅原道真の命日に合わせ冠句を捧げる行事です。

当日の朝、子どもたちは大鳥羽会館に集合し、大粒の雪が降る中を並んで天満宮へお参りしました。

会館での冠句作りでは、「倍返し」「おもてなし」といった昨年の流行語などから10のお題が出され、子どもたちは文字数を数えながら、一生懸命に句を作っていました。



アラカルト



1
3
5

2
4

1. 嶺南地区吹奏楽アンサンブルコンテスト
パレア若狭 (1/19)
2. 保育事例発表 (1/13)
3. 育ちの仕組み 上中庁舎 (1/25)
4. 事業所PR展 パレア若狭 (1/9～19)
5. 「昔の水辺の風景」絵画展
若狭三方縄文博物館 (1/7～2/2)

住民リポーターさんの似顔絵：岡本サキン

田んぼや畑を数珠つなぎ ー田んぼや畑、自慢しますー

吉村 哲雄 さん (三生野・85歳)

「畑にある梅の木の剪定をしています。古い枝は黒くなるとるんで、それを切り落とします。怠けとったら遅くなってしまっていて、今がんばっております(笑)」



なしたええんや ーわたしのオススメ、教えますー

高田 尚 さん (無悪・29歳)

「スノーボードにはまっています！愛車もスノーボード板が積める大きさなので、常に積んでいます。なので、会社帰りに今庄などのナイターへ直行したりもしています♪」



こちらのページでは若狭町にお住まいのみなさんをご紹介します。掲載を希望の方は、お気軽にご連絡ください！
NPOわかさ Reco. Tel : 050-3701-8341 Fax : 050-3730-7496 Facebook ページ：「わかさのススメ」

文 芸 ひ ろ ば

へ海士坂俳句会

どんど火に焙る^{あぶ}古老の前うしろ

四世代部屋一ぱいに初笑ひ

へ大鳥羽山水俳句会

初明り闇を脱ぎゆく神の森

初夢のたて髪長き馬に乗る

へかをり歌会

動と静吾が生涯を織りなして

命永らふ七草のかゆ

晴れたればかもめも舞ひ来て羽づくろひ

湖荒れし今日鳥影ひそと

へ上中短歌会

飼ひ犬に生命^{いのち}を貫ひて永らふと

思ひは深む古希すぎしより

海ぞいの釣^{つる}姫明神のかたわらに

海桐花のはじく秋の日温し

へ川柳湖畔

叩いても動かぬ意地を持って居る

手を叩くみんな他人でみな仲間

へほつと川柳

体時計朝の光で動き出す

元日の朝日障子の破れから

へ若狭町冠句の会

積み上げて聖火よ大都の空焦がせ

笑い皺汗と我慢の到達点

内藤増之(海士坂)
池田マリ子(海士坂)

原田洋美(大鳥羽)
檜鼻澄美江(大鳥羽)

中西友信(向笠)

山口賀代子(気山)

高木貞夫(杉山)

竹内八重子(脇袋)

井口善弘(田井野)
今川てる子(鳥浜)

新田恭子(玉置)
吉田美由紀(脇袋)

松本双樹(小川)
小林岑子(三田)